

2016年度アイスクリーム販売高確定
前年比6.6%増、4935億円！
5000億円は目前、次は小売金額1兆円突破

2016年度のアイスクリームマーケットは、年間販売高が4935億円（前年比6・6%増）で確定しました。小売金額では約8200億円となります。

2013年度に史上最高記録（1994年度）を20年ぶりに更新してから4年連続の最高記録更新です。4000億円突破は7年連続で、5000億円が目前となりました。

2016シーズンは、前年の主要商品価格改定に続き、ハードタイプ&氷もの及び低額品の値上げがあつて、ステップアップを目指す春から始まりました。6月までは順調で103%だった。そして最盛期はアメリカNASAの史上最強の夏が来るという予測が、半分当たったと言えそうで、日本は西高東低型の夏でした。それでも氷もの&ハードタイプの売れ行きが好調で特に8月と9月が2ケタアップの大幅増販となり、春夏商戦上半期累計は前年比108%の着地で金額は3175億円、235億円に増販。秋冬商戦下半期はボトムアップが進んでいることから10月から2月まで5ヶ月連続のプラスで順調な成果を上げて、下半期累計では104%、1760億円で70億円のプラスとなつて、年間着地は前年比106・6%、4935億円まで伸びました。

販売高集計については、数年前までは、大手上場企業主要メーカーの3月期決算発表後に、それを集計したものでしたが、いまでは日本基準という企業グループ優先で連結決算の公表が全てとなっています。単独企業の決算数値は公表しないところが多い。連結決算で公表されたアイスクリーム販売高にはかつての単独企業の売上高との連続性はありません。だから業界推移、規模把握に何の役にも立たないのです。したがって、アイスクリーム業界の全ての数値は、本紙独自調査によるものです。

なお、正直に言ってしまえば、ソフトクリーム原料販売高の中で、トップメーカーの日世等の売上高が入っていませんし、JAなどが展開している地アイスの販売高やジェラートショップ等の売上も入っていないのです。大手チェーンの専用商品で入っていないものもあります。カウンター商材で漏れているものもあります。これらをすべて加えると、日本のアイス市場の総マーケットは既に5000億円を超えていて、5300億円位と推測されます。そして、それを小売金額に直すと、8700億円を優に超えるのです。

本紙は数年前から「東京オリンピック2020年には小売金額1兆円産業になる！」と大きな花火を上げていますが、業界内の反応はたいへん鈍くて、ちよつと失望しています。それはけっして夢物語ではありません。根拠のない主

張はしておりません。2016年現在で8700億円あれば、5年後の2020年に1兆円にすることは、簡単ではありませんが、困難極まることでもないと思います。

人口構成で最も多い団塊世代の熟年マーケットの潜在需要が800億円、次に多い団塊ジュニアの働き盛りマーケットで400億円、商品進化による単価アップで400億円、これを足すと1兆円を楽々と超えます。

現実に立ち返り、アイスクリーム業界（メーカー出荷額）の次のステージは5000億円突破ですが、小売金額で1兆円産業への挑戦を進めていきたいと切に願っています。